

# 支部における社会貢献活動

公益社団法人 全国上下水道コンサルタント協会／調査課長 幡豆英哉

公益社団法人全国上下水道コンサルタント協会（水コン協）の各支部では、それぞれの地域で開催される水環境や上下水道にかかわる各種イベントや社会に貢献できる活動に積極的に参加しています。

令和5年、各支部が参加した社会貢献活動を以下にご報告致します。

## (1) 「水循環パネルの貸し出し事業」 北海道支部

北海道支部では支部で作製した水循環パネルを、毎年様々な会場へ貸し出しを行っています。令和6年度は、5月28日～7月3日に「足寄町」、7月30日～8月14日に「新ひだか町」、7月31日～9月30日に「石狩東部広域水道企業団」、9月3日～9月10日に「北海道」へそれぞれ水循環パネルをお貸しして、パンフレットを配布いたしました。

足寄町では小学生の上下水道に関する授業の中で活用していただきました。新ひだか町では「上下水道パネル展」で会場の新ひだか町図書館・博物館及び総合町民センターでの展示に、石狩東部広域水道企業団では、企業団が参加されました自治体でのイベントに、北海道では下水道の日に合わせて北海道庁1階ロビーにて開催された「下水道パネル展」で展示及びパンフレットの配布をしていただきました。それぞれの会場で、訪れた多くの方々に水循環への理解を深めていただけたと思っております。



写真-2 北海道庁での下水道パネル展



写真-3 えいわん産業祭2024 UNITE



写真-1 足寄小学校での活用状況

## (2) 「広瀬川1万人プロジェクト～第36回 広瀬川流域一斉清掃～」 東北支部

開催日時：2024年9月28日（土）10:00～12:00

広瀬川1万人プロジェクトは、杜の都・仙台のシンボルである広瀬川の自然環境を守り、多くの市民が親しめる広瀬川とするため、100万都市仙台の1%・1万人をキーワードとして、主な活動として、春と秋の年2回実施されている流域一斉清掃があります。

水コン協東北支部が参加した秋の一斉清掃では、昨年に続き、人数制限なしでの開催となり、全18会場（昨年20会場）で1,705名（昨年1,562名）、集めたゴミは164袋（昨年281袋）になりました。水コン協東北支部は、今回で17回目の参加となり、会員17社（昨年15社）から70



写真-4 広瀬川で清掃作業をする参加者のみなさま



写真-5 清掃活動に参加頂いた水コン協東北支部メンバー

名（昨年59名）の方々が参加しました。この場をお借りして、改めて感謝申し上げます。

今年は、うっすら雲がかかる秋空の中、体を動かすにはちょうど良いコンディションでしたが、みなさんはゴミを見つけ出すのに大変苦労していました。これも長年の活動の成果だと思っています。このため、早い段階で清掃活動を終えた方々は、各々が広瀬川の自然に親しみながら、有意義な時間を過ごされていました。

水コン協東北支部では、これからも多くの市民が広瀬川に親しめるよう、流域の自然環境を守る活動に貢献していきたいと思います。

### (3) 「仙台市下水道フェア」 東北支部

開催日時：2024年9月15日（日）10:00～15:00

水コン協東北支部では、これまで毎年11月3日の文化の日に「青葉区民まつり」に併設される「仙台市下水道フェア」に「下水道のがっこう」を出展してきました。令和6年は、仙台市庁舎の建替え工事の影響もあり、「仙台市下水道フェア」が単独で開催されることになり、開催時期も9月に変更となりました。水コン協東北支部では、仙台市民の方々に、下水道の役割や大切さを知ってもらうことを目的として、これまで参加してきましたが、2020～2022年までの3年間は、コロナの影響により開催されず、2023年ようやく再開されることとなりました。

イベント当日は、残念ながら朝から雨が降り続きましたが、足元が悪い中にも関わらず、多くの市民のみなさ



写真-6 水コン協出展サイトの様子



写真-7 雨の中参加頂いた水コン協東北支部メンバー

まにご参加いただきました。

「下水道のがっこう」では、下水道にまつわるクイズの出題や「つまらん管」の実演実験を実施しました。実演実験では、興味津々にのぞき込む子供達も多く、クイズの参加者にはクジにより景品を提供し、参加者のみなさまには大変喜んでいただきました。

水コン協東北支部では、下水道フェアへの参加を通じて、協会PRのみならず、市民の方々にも下水道に関心を持っていただく大変重要な機会として捉え、今後も引き続き参加を継続していきたいと思います。

### (4) 第21回「身近な水環境の全国一斉調査」 関東支部

「身近な水環境の全国一斉調査」は、市民グループと河川管理者が連携して実施する「全国水環境マップ実行委員会」が主催して行う水環境の調査活動で、2023年の調査までに全国で延べ約13万3千人が参加しています。

21回目となる「身近な水環境の全国一斉調査」は、令和6年6月2日（日）《※世界環境デー（6月5日）の前後》に実施され、会員会社10社及び本部事務局の社員とその家族の合計108名（大人84名、子供24名）が水質調査に参加しました。

表-1 調査に参加した動機（複数回答可）

	選択肢	回答数 (%)	備考
イ	自分が住んでいる近所の河川の水質に興味があったから	35 (32%)	
ロ	水コン協の「社会に貢献するための行動」の一環なので協力したいと思ったから	29 (27%)	
ハ	「身近な水環境全国一斉調査」の目的に共感したから	22 (20%)	
ニ	子供たちが水環境や地球環境を考える良い機会になると思ったから	16 (15%)	
ホ	会社の上司から参加するように言われたから	2 (2%)	
ヘ	その他	5 (4%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の頃、水質や地下水調査を行っていたから</li> <li>・毎年、同じ地点で実施しており愛着があるため</li> <li>・水質調査に興味があったから</li> <li>・弊社のCSR活動の一環</li> <li>・CPDの取得</li> </ul>
	計	109 (100%)	



写真-8 出前授業の様子



写真-9 ようかい実験の様子

調査地点は、参加者が生活されている地域の身近な河川・湖沼等の64地点で、COD測定と水辺の環境や動植物について観察を致しました（昨年度は134名（大人104名、子供30名）、81地点で水質調査に参加）。毎年、参加された方あてに、この調査に参加された動機等のアンケートをお願いしていますが、参加された方からは「毎年子供との恒例行事となりました。来年も参加したいと思います。」また、他の方から「もっと他の水質項目も測定してみたいです。」などの嬉しい感想がお寄せいただきました。

**(5) 第11回「出前授業」 中部支部**

名古屋市立栄小学校のご協力のもと、令和6年5月28日、11回目となる「出前授業」を開催しました。この出前授業は、小学校4年生を対象に授業の1限をお借りし、中部支部の総務・広報委員が講師となって「下水道の仕組み」「正しい使い方」「水コンサルタントのお仕事」等を学んでいただく活動です。

出前授業の構成は2つあります。1つ目は、下水道の仕組み、正しい使い方について委員が「下水道橋博士」に扮して、クイズを交え分かり易く解説します。その終盤には「博士の弟子」3名を追加動員して水コンサルタントの具体的な仕事内容（設計事例）を紹介するなど、水コンの活躍をPRしました。（写真-8）

2つ目は、「ようかい実験」（溶解と妖怪をかけたもの）です。水を入れた別々のペットボトルにティッシュペーパー

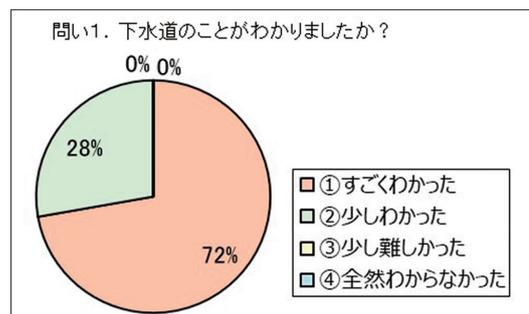


図-1 出前授業のアンケート結果

パーとトイレトペーパーを入れてカ一杯にシェイクしたあと、号令でたらいに排水して溶け方の違いを実験します。ティッシュペーパーは飲み口に詰まって排出されず、なぜトイレにティッシュペーパーを流してはダメなのか、実験を通して体感してもらいました。この実験は結果が視覚的で分かりやすく、毎年生徒さんに大変好評です。（写真-9）

問い4. 今日の授業を受けた感想を書いて下さい。

とても下水道についてよくわかってよかったです。と思いました。

実験について、この実験でトイレトペーパー以外を流してはいけないということがわかりました。

ありがとうございました。

問い4. 今日の授業を受けた感想を書いて下さい。

じや業がわかりやすいし、おもしろくてくにおもしろかったのは、よいかい実れです。さい初めにトッシュとトイレトペーパーをながすときはトッシュがら流れていくてびっくりしました。あと、水のことを失おうと思ひました。ありがとうございました。

図-2 出前授業の感想（お便り）

授業の後日にいただいたアンケート結果（図-1）と生徒さんからの感想（お便り）（図-2）の一例をご紹介します。令和6年の出前授業も大変に好評で、手応えのある結果となりました。いつか、出前授業を受けた生徒さんが当業界へリクルートにくる、そんな日を夢見て、委員一同来年も元気な新4年生に出会えるのを楽しみにしています。

#### （6）「下水道フェスタ'24富山県」 中部支部

中部支部では毎年、富山県と愛知県の夏の下水道関連イベントに交互に出展して協会活動のPRを行っています。令和6年は9月7日（下水道の日）に富山県の神通川左岸浄化センターで開催された「下水道フェスタ'24」に参加してきました。

中部支部のブースでは、恒例となる「ゲームDEゲット！～中部各地のおいしい水～」と称するダーツゲームで遊べるイベントを出展しています。ダーツの当たった番号に応じて景品（ボトル水）と協会PR用のうちわの配布を行いました。当日は猛暑の中、下水道フェスタは大勢の親子連れの来場者で賑わい、ゲームに参加した皆さまには見慣れない各地方のお水に喜んでいただき、用意した景品のボトル水約500本が想定より早く品切れとなるなど大盛況となりました。（写真-10）

富山県でのイベント参加は、普段交流機会の少ない北陸地域の会員企業の会員さんが参加しやすい貴重な機会にもなっていて、今年は2社から5名の応援を頂くことができました。来年の夏は愛知県のイベントにお邪魔し、水コンサルタントのPR活動をする予定です。



写真-10 「下水道フェスタ'24富山県」参加の様子

#### （7）「森造り協力事業（水源涵養）」 中部支部

中部支部では、東海地区の水源地域である長野県木曾町と共催で「森造り協力事業（水源涵養）」を継続して開催（コロナ禍など4年間の開催中止を経て令和5年から再開）しています。令和6年は10月27日（土）に、会員企業7社34名の参加をいただき、参加者は自分たちの使う水を育む森林の保全活動となる枝打ちや間伐等のボランティア活動を通して、水環境の健全な維持に想いを馳せていただきました。

午前中は森林所有者である組合のご協力・ご指導のもと「間伐」と呼ばれる混みあった森林から木を伐採（間引き）する作業を実施しました。この作業は木が1本1本たくましく育ち下層植生も生い茂る健全な森林とするために欠かせない作業の一つです。作業開始時は少し肌寒かったですが、約1時間の作業後は皆さん良い汗をかいていました。作業前後を比べて森林内への日差しの量が明らかに増しており、森林の保全作業の重要性とその苦労を実感しました。（写真-11、12）

午後には、地元木曾町の人気スポット「木曾おもちゃ美術館」を見学しました。木のぬくもりを感じながら様々なおもちゃを手にとって遊べる体験型の施設で、若手からベテランまで、しばし童心に戻って楽しみ、帰路につきました。



写真-11 間伐作業の様子



写真-13 職業人と語る会（講座の様子）



写真-12 水源涵養事業参加者集合写真

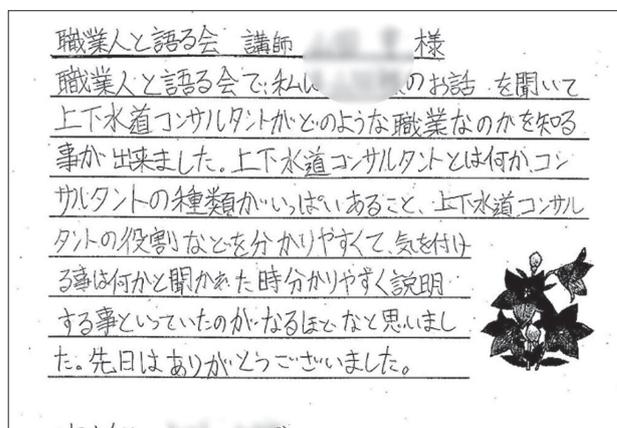


図-3 職業人と語る会の感想（お便り）

### (8) 「職業人と語る会」

#### 中部支部

令和6年11月5日、愛知県下のとある中学校からの講師派遣依頼を受けて、1年生を対象に毎年開催されている「職業人と語る会」に参加してきました。当支部は令和4年度から参加（支部公式活動としてはR5～）しており、3回目の参加となりました。「さまざまな職業に携わる職業人と語り合うことを通して、働く目的や意義について考えを深める」ことを目的に、キャリア教育の一環として実施されています。

当日は40分の講座を2回行いました。他の講師陣は、飲食店経営者、研究者、薬剤師、起業家など知名度の高い職業人が集まる中、知名度の低い「水コンサルタント」に興味をもつ延べ18人の生徒に、インフラ整備の重要性、水コンの役割、やりがいや苦勞等について熱く語り、中学生の率直な質疑に答えてきました。（写真-13）

後日、生徒からのお便りの一例を図-3に紹介します。初めて聞く職業にもかかわらず、講師の話真剣に聞いていただき、「水コンサルタントとは？」がそれなりに伝わったと実感しています。

就職を意識した大学生へのアプローチは当然ですが、その上流で職業としての認知度に後れを取っており、中・高校生世代への認知度向上が必要と感じています。本活動は、中学生に向けて「水コンサルタントの役割、

特徴、仕事内容」に特化してPRができるため、水コンPRの草の根活動として大変有意義な機会と考えています。

### (9) 第21回「身近な水環境の全国一斉水質調査」

#### 関西支部

関西支部では、水環境の一斉調査に参加することにより、全国で同日に実施される調査結果を全国地図に記入することにより、わが国の河川等の水質状況が一目で認識できることに賛同し、関西地区での水環境活動の普及に努めることとし、第19回から参加しております。令和6年度は6月2日（日）午前実施し、会員会社で45名（前年度33名）の方が参加しました。

調査地点は、参加者が活動されている地域の身近な河川等の45地点で、COD測定（パケットテスト）、水温測定と水辺環境や動植物について観察しました。

昨年と同地点で調査を実施した結果、「昨年1匹であった亀が2匹見ることができた」との報告や「COD結果が6mg/Lであったことから、腐植土からのフミン酸やフルボ酸などフミン物質の流出によって少し高い数値を示

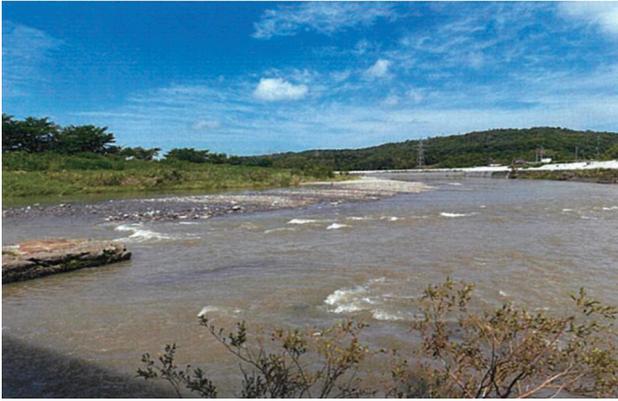


写真-14 加古川水系 美囊川の様子



写真-16 押領司関西支部長の開会挨拶

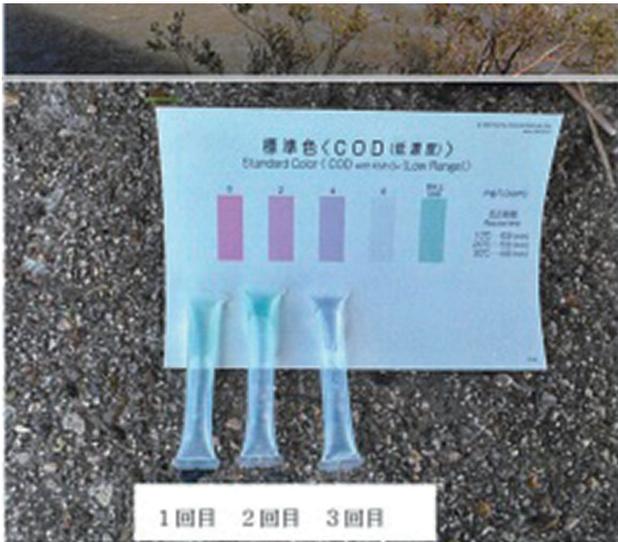


写真-15 CODパケットテストの様子



写真-17 水の科学実験の様子（表面張力）

していると考察される」など、周辺環境を観て多面的に考察された報告がありました。毎年、水環境の一斉調査に参加することで水環境、水循環への関心が高まっていればと考えております。

**(10)「夏休み水の教室」 関西支部**

関西支部では、夏休み期間中に小学生を対象にしたイベントを開催しており、昨年に引き続き、上下水道の役割や水の大切さを勉強して頂くことを目的として、大阪市下水道科学館において「夏休み水の科学」を開催しました。今回は、クリアウォーター-OSAKA株式会社、株式会社フソウと共催し、小学生ら40人が参加しました。

テーマは、①座学「わたしたちのくらしと下水道」、②観察（水の科学実験（表面張力、浸透、微生物の観察））、③クイズ～うんこクイズ、今回新たに併催企画として、株式会社フソウによる④防災展：防災用簡易浄水器実演、防災グッズの展示、パネル展示（南海トラフ地震、能登半島地震、東日本大震災等）を実施しました。①の座学では、下水道の役割や活性汚泥の微生物の働きについて説明して頂きました。②の観察では表面張力と大気圧を利用して、水の性質や知識を深めて頂きました。また、



写真-18 顕微鏡による微生物観察



写真-19 防災展（簡易浄水器実演、パネル展示）の様子

浸透の実験では活性炭による脱色で活性炭によって汚れ成分が「吸着」していく作用を観察しました。もう一つの観察は、活性汚泥の中の微生物を顕微鏡で観察しました。子供たちは熱心に、微生物の動きを観察していました。「うんこクイズ」では汚泥がどのように下水処理されてどうなっていくか、4つのクイズに答えてもらいました。「君の1年分のうんこで作った電気で10WのLED電球を何ヶ月照らすことができるか、リンゴ何個が栽培できるか」など。④の防災展では、簡易浄水器を実際に操作し、黒い水が浸透膜を通して、透明できれいな水になる様子を観察しました。

子供たちから「微生物や水の不思議を知れてよかった。そして水を大切に使用おうと思った。いつもきれいにしてくれてありがとう」と感想がありました。

生活に欠かせない下水道や防災の大切さについて、座学や実験を通して深めて頂きました。

#### (11) 広島市「下水道ふれあいフェア」 中国・四国支部

広島市主催「下水道ふれあいフェア」が9月8日(日)に広島市西部水資源再生センターで開催されました。

このフェアは、9月10日「下水道の日」にちなんだイベントとして、毎年9月10日前後の日曜日に行われてお



写真-20 中国・四国支部出展ブースの様子(1)



写真-21 中国・四国支部出展ブースの様子(2)



写真-22 中国・四国支部出展ブースの様子(3)

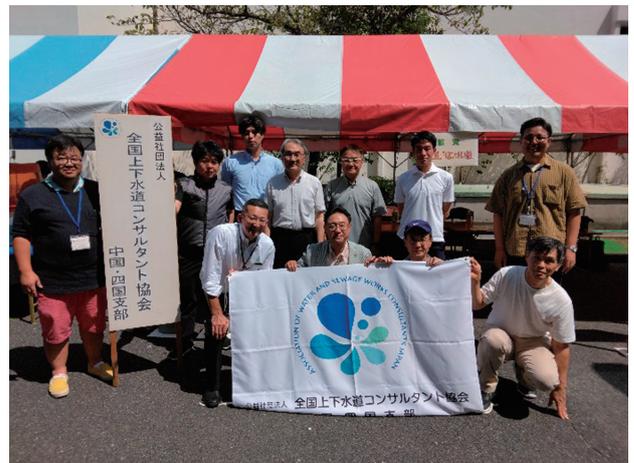


写真-23 中国・四国支部のブーススタッフ集合写真

り、中国・四国支部もブースを出展しました。来場者の方々を対象に「上下水道コンサルタント業務等を紹介するパネル」の展示や「冷感タオル」、「ミネラルウォーター」、快適な生活と地域の良好な水環境を啓発する小学生向けの冊子「水の妖精エアリス」、「水コン協の事業活動に関するパンフレット」などの配布を、支部長、副支部長及び幹事会社のスタッフが行いました。

当日は、天候にも恵まれ大勢の方々が来場(1,381人)されました。

配布物が無料ということもあり、ブースには長い行列ができるほどの大盛況で、多くの方に下水道への理解や下水道事業についての意識向上を努めることが出来ました。

今後とも、積極的に社会貢献活動を行っていきます。

#### (12)「紫川流域会議～紫川流域一斉清掃～」 九州支部

北九州市内を流れる二級河川紫川では、河川環境の保全や水質改善など、流域全体の課題に取り組むことを目的に、北九州市が中心となって紫川流域会議を設立しています。

この活動は、市民、ボランティア団体、企業、学校な



写真-24 北九州市の中心部を流れる紫川



写真-26 活動状況 (1)



写真-25 九州支部会員および会員家族の集合写真



写真-27 活動状況 (2)

どが協力し2004年度から継続して行われています。

九州支部では、会員の環境意識を高め、紫川の自然を守ることを目的に、この流域会議と連携して10月19日(日)の早朝から、紫川中流域を対象に27名の会員及び会員家族が紫川流域一斉清掃に参加しました。

当日は、あいにくの小雨まじりの天気でしたが、雑談を交えながら楽しく清掃活動を行うことができました。

今回の活動によって、会員同士の親睦を深められたことに加え、この活動に参加した未来を担う子供たちの環境意識を育むきっかけになればと考えています。

九州支部では、社会貢献活動として、このような環境保全活動に今後も積極的に取り組んでいきます。



写真-28 活動を行った紫川中流域